

# 本がいっぱい!



## Teen's 2018



### 『ラブリー!』《Y F 3》

吉田桃子／著 講談社

青少年創作映像コンクールで念願の賞をとったオレ。でも、みんなは知らない。その映画の主演は中学校イチの美少女、亜美奈じゃなくてブスの涼子だってことを。本当のことは誰にも言えないけど、世の中ってどうして見た目を気にしすぎるんだろうな。



### 『ファニー13歳の指揮官』《Fベ》

ファニー・ベン=アミ／著

ガリラ・ロンフェデル・アミット／編 伏見操／訳 岩波書店

ドイツからフランスへ、ナチスの手を逃れてきたユダヤ人のファニーは、両親と生き別れ、妹とおおぜいの子どもたちと一緒にスイスへ向かいます。途中、引率者がいなくなり、突然みんなのリーダーになったファニーは仲間をまとめて、待ち受ける困難に立ち向かいます。

TOKOROZAWA PUBLIC LIBRARY  
所沢市立所沢図書館



### 『ウィッシュガール』《Y F 0》

ニッキー・ロフティン／著 代田亜香子／訳 作品社

学校でいじめにあい、家にも居場所がないピーターは、ひとりになれる場所を探して、ある谷に来た。そこでじっとしていたピーターは、すぐ近くに女の子がいることに気が付く。同じ年くらいの女の子は、自分はウィッシュガールだと言った。

### 『マーヤの自分改造計画』《Y 93. 4》

マーヤ・ヴァン・ウァーグネン／著 代田亜香子／訳  
紀伊國屋書店

マーヤは、内気で自分に自信のない中学生。ある日、人気者になるためのアドバイスが書かれた本と出会い、そのとおりに行動する実験を始める。体型、ヘアスタイル、ファッション…変えなければいけないことはたくさん。60年以上も前の本で、マーヤは人気者になれるのか?



### 『そして、ぼくは旅に出た。』《Y 91. 4》

大竹英洋／著 あすなる書房

北米の湖水地方ノースウッズに魅せられた「ぼく」は、著名な写真家に会って弟子入りを頼むため、カメラを手に入れ旅に出た。旅の途中で出会った人々と写真を撮ることを通して、自然と自分自身を見つめ、写真家になる夢に向かっていく。

### 『わたしのカブトムシ研究』《4 8》

小島渉／著 さ・え・ら書房

誰もが知っている大人気の昆虫、カブトムシ。カブトムシの幼虫はなぜ土の中で密集しているのか。カブトムシはどんな動物に食べられやすいのか。この本は、若き研究者が、カブトムシを飼育・観察しているうちに出てくる、「なぜ? どうして?」を解明していった記録である。

### 『鹿の王』上・下《Y F U》

上橋菜穂子／著 KADOKAWA

ある夜、岩塩鉱を突然襲った犬の群れ。鉱山にいた人間は容赦なく咬まれ、謎の病が発生した。犬に咬まれたのにもかかわらず、生き残ったのは囚人ヴァンと幼子のみだった。

## 『さよなら、スパイダーマン』《Fピ》

アナベル・ピッチャー／著 中野怜奈／訳 偕成社

姉のローズがイスラム過激派のテロに巻き込まれて、家族がバラバラになってしまった。父はお酒におぼれ、母は家を出て行ってしまふ。転校先で仲良くなったスーニャは、父が嫌いなイスラム教徒で…。



## 『正義の声は消えない』《23》

ラッセル・フリードマン／著 渋谷弘子／訳 汐文社

第二次大戦中のドイツ。ヒトラーのユダヤ人迫害に異を唱える若者たちがいた。彼らは命の危険を顧みず、ナチスの独裁政権を批判した「白バラのビラ」を作り、密かに配った。「抵抗せよ、いかなる場所にしようとも…」。やがて彼らに、ゲシュタポ（秘密警察）の手が迫る。



## 『コーヒー豆を追いかけて』《61》

原田一宏／著 くもん出版

コーヒー豆は熱帯・亜熱帯の国々で栽培され、世界中に輸出されています。コーヒーと人間の歴史や、コーヒー豆について、いろいろ調べてみましょう。地球環境を守るうえで大切な熱帯雨林のこと、コーヒー豆を作る人々の生活のことなど、大切なことがわかってきます。

## 『ホビットの冒険』《YFT》

J.R.R. トールキン／作  
瀬田貞二／訳 岩波書店

冒険なんかとは全く縁がないと思っていたホビット族のビルボ。ある日、魔法使いのガンダルフによって、ドワーフたちの竜退治に巻き込まれてしまった。竜を殺し、奪われた宝を取り返すべく、荒れ地の国へ、出発だ！

## 『センス・オブ・ワンダー』《Y40》

レイチェル・カーソン／著  
上遠恵子／訳 新潮社

夏の数ヶ月をメイン州ですごす著者は、甥のロジャーを連れ、夜の海辺へ出かける。嵐の夜の海の荒々しい興奮。幼いロジャーと心を解き放ち、自然の中で、発見の喜びと感動を分かち合う。



## 『列車はこの闇をぬけて』《YFラ》

ディルク・ラインハルト／作 天沼春樹／訳 徳間書店  
グアテマラの家を出て、ママを探しに行く。そう心に決めた14歳のミゲルは、フェルナンド、エミリオ、アンジェロ、ヤスの4人の仲間と出会う。そして、国境を越えて、アメリカ合衆国を目指す、とても危険な旅に出た。

## 『空色バウムクーヘン』《YFヨ》

吉野万理子／著 徳間書店

若葉の夢はお笑い芸人になること。しかし、高校に入学して運命の相方に出会えたと思った矢先、なぜかウエイトリフティング部に入部するはめに？！辞める気満々の若葉だったが、仲間とともに1キロ、また1キロと重さをかさねるうちに、いつしか不思議なほどのめりこんでいた。



## 『凍てつく海のもこうに』《YFセ》

ルータ・セペティス／作 野沢佳織／訳 岩波書店

第二次世界大戦末期、ソ連軍の侵攻から民間人を救うため、ドイツ軍による「ハンニバル作戦」が行われた。ヨアーナたち4人は、それぞれ運命に翻弄されながらも、自由と救いを求めて船に乗り込んだ。しかし、彼らを待ち受けていたのは、「海運史上最大の惨事」だった。

## 『パンツ・プロジェクト』《Fク》

キャット・クラーク／著 三辺律子／訳 あすなる書房  
中学校になんて行きたくない。制服のスカートををはかなきゃならないなんて最悪。だって、リヴの身体は女の子だけど、心は男の子だから。同級生はからかってくるし、校長はアタマが固いけど、絶対に、女子もズボンをはいていいって認めさせてやる！

